



## 学部長ごあいさつ

保健医療学部長 大日向 輝美

芽生えの春も過ぎ行き、早や新緑の季節となりました。6月の大学祭、夏の東日本医科学生総合体育大会に向けて、学生たちの課外活動もいよいよ本格化しており、学内は若いエネルギーで活気づいています。

さて、去る3月18日、保健医療学部第20期生となる看護学科50名、理学療法学科21名、作業療法学科17名が母校を巣立ち、医療専門職としての道を歩み始めました。また、看護師・保健師、理学療法士、作業療法士の国家試験に関しましては、例年同様、4職種とも全国平均を大きく上回る合格率を達成し、卒業生は希望する職種の国家資格を取得することができました。4年間で培われた誠実な学習姿勢と研鑽努力のみならず、保護者の皆さまのご支援あつてのことと心より感謝申し上げます。

医療系大学におきまして国家試験合格率は教育成果としての意味を有するだけでなく、教育の質そのものを示す極めて重要な指標とされています。本来、国家試験とは各職種に求められる能力水準の最低線を担保するためのもので、本学の卒業要件を充たす学生においては減多なことがない限り、合格は当然のことでもあります。しかし、やはり合格発表の日は朝から落ち着かない気分で過ごすというのが本音のところですが、今年もまた、国家試験の合格を知らせに来てくれた卒業生たちの極上の笑顔が、明日からの教育・研究に向かう活力を私たち教職員にもたらしてくれました。

国家試験に向かう4年間の大学生活には多くの困難が内在していますが、医療専門職としての知識と技術を得るだけでなく、人として大きく成長できる年月であってほしいと願います。学生たちが生き生きと大学生活を送ることができるように、修学支援・生活支援の一層の充実に取り組んで参りますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 【平成28年度 学事予定】（1～4学年）

4月 8日	入学式
4月11日 ~ 4月13日	「保健医療総論 1～4」
6月 9日 ~ 6月12日	大学祭
6月25日	大学記念日
8月 1日 ~ 9月 2日	夏季休業（1・2年生）
9月 5日 ~ 9月21日	前期定期試験（1・2年生）
8月 1日 ~ 8月26日	夏季休業（3年生）
8月29日 ~ 9月 9日	前期定期試験（3年生）※理学～9月15日
7月26日 ~ 8月 2日	〃（4年生看護）
8月 4日 ~ 8月19日	夏季休業（4年生看護）
8月10日 ~ 9月16日	〃（4年生理学）
7月28日 ~ 8月12日	〃（4年生作業）
9月26日 ~	後期講義開始
10月20日 ~ 10月22日	体育祭
~ 12月 9日	文化芸術祭
12月26日 ~ 1月 6日	冬季休業
2月20日 ~ 3月 3日	後期定期試験（1・2年生）
1月30日 ~ 2月 3日	〃（3年生理学）
2月13日 ~ 3月 1日	〃（3年生作業）
3月17日	卒業式



入学式



卒業式

## 学科長ごあいさつ

### 看護学科長 城丸瑞恵



平成28年3月18日(金)に卒業式が行われ、看護学科50名がみな晴れやかな表情で卒業しました。今年も看護師・保健師国家試験に全員が合格して、本学の学生の頼もしさをあらためて実感するとともに、保護者の皆様のご支援に深く感謝しております。ありがとうございました。卒業生の多くは看護師・保健師として社会人になりますが、大学院や助産学専攻科などへの進学者も数名おりました。また勤務先も東京・千葉など道外を選択した卒業生もいました。本学の卒業生としての誇りを胸に、それぞれの道に希望を抱き進んでおります。

一方、4月8日(金)には50名の新入生を看護学科に迎えました。1人1人の表情は初々しくまた期待に満ちあふれていました。新入生オリエンテーションにもまじめに、そして積極的に参加しており、これからの学習を行う上で良いスタートを切ることができたと思います。2年生は疾病に関する理解や看護の方法について学ぶ専門基礎科目が増え、後期には札幌医科大学附属病院で実習があります。3年生は多様な領域の看護方法について学ぶ専門科目が一層増え、本格的な実習が行われます。4年生は、引き続き専門科目を学習するとともに、「看護技術総合演習」「看護統合実習」「看護研究」などがあり、これらの科目を通して既習の知識と技術を統合して4年間の総まとめを行います。

これからも教職員一同、学生1人1人の個性を大事にしながら、豊かな人間性と高度な実践力の育成に向けて努力する所存です。保護者の皆様におかれましては、引き続きご支援よろしくお願いいたします。

### 理学療法学科 片寄正樹



例年開催される学科単位の対面式とオリエンテーションは、理学療法学科全教員13名が参加し実施されます。本学科教員一人一人からの自己紹介とあわせて、本学の今後4年間の学びに向けてのメッセージを送るとともに、新入生一人一人からも本学への志望動機や、将来の夢を語る希望にみちた言葉を共有する場としています。

本学科の専門教育カリキュラムでは、入学後すぐに医療職の基盤となる解剖学がスタートし、2年生からは身体運動のメカニズムを追求する運動学に加え、様々な病態を理解するため臨床医学の履修に入ります。3年生からは理学療法専門科目の本格的履修が始まり、4年生の進級後すぐに実際の症例を担当しながらの臨床実習にはいっていきます。4年の月日はあれども、計画的に時間を大切に学習を促すように指導しています。また、本学科では理学療法学科教員研究室所属の大学院生が学部生の卒業論文の作成指導にもかわる環境が整備されています。理学療法学のプロセスと深さ、そして臨床における科学的思考の重要性を認識するとともに、大学院生とのふれあいから自分の関心領域の確認や将来にむけた情報の収集などが行われる機会となり、本学科における優れた学習環境のひとつと考えています。

入学時に様々な希望を胸に入学した学生もこのような環境の中、高い「自己学習能力」と「人間性」を意識した学びを日々続けていくことの重要性を伝えていきたいと考えています。今後とも引き続きご支援を賜りますこと、何卒よろしくお願いいたします。

### 作業療法学科 仙石泰仁



4月8日に20名の新入生が入学し新たな年度が始まりました。近年の特徴として、新入生の中で高校1~2年生の段階で作業療法士を目指すようになったと話す学生が増え、職業的にも認知度が上がってきたことを実感しております。一方でその職業イメージが一昔前の作業療法の認識であることが多く、適切な情報発信の必要性を感じています。

作業療法を取り巻く環境は大きく変化を続けています。報道などでは介護報酬や診療報酬の引き下げ、リハビリ算定の日数制限など、あまりよい話しは聞こえていないかもしれません。しかし、この流れは今までのように病院のリハビリ室でリハビリを行うだけでは不十分であり、地域や在宅でもリハビリを提供すること、病気に罹らない予防的な介入を行う事を推進しようとする制度的な変化によるものともいえます。実際、病院では多様な疾患に対して、多職種で連携した短期集中的なリハビリを行い早期の退院を支援すること、退院後は外来治療や介護保険を利用しながら一日も早く新たな生活基盤を作っていくこと、そして、再発や病気を予防するために健康マネジメントに専門性を発揮することなどが、今の作業療法士には求められていることと考えています。

そのため、学生達は単に試験に通るための学修では不十分であり、自ら情報を収集して学び、人と議論し一定の結論を出していく能力が身につくように支援していきたいと考えています。また、学修には生活の安定が必要不可欠であり保護者の皆様との連携が重要です。何かあれば学生担任教員にご遠慮なくご相談をいただけますようお願いいたします。



## 「平成27年度医療接遇特別講演会」 (平成27年11月24日(火)開催)

この講演会は、保健医療学部を卒業する4学年を対象に、医療現場における接遇スキルを学び、実践に生かすことを目的としております。講師には、昨年度に引き続き全国各地において接遇コンサルティング、接遇研修を行っているラ・ポール株式会社代表取締役の福岡かつよ先生をお迎えしました。当日は保健医療学部学生83名が参加し、福岡先生から社会人としての心構えについてお話しいただくほか、コミュニケーションにおける第一印象の重要性を知るためのペアワーク、「医療人として接遇において必要なことは何か」についてのグループワークを行いました。

参加した4年生たちは、この講演会を通して医療人として自分がどのように成長したいか、豊かな人間関係の構築のためには何が必要か等、多くのことを考え、学び取った様子でした。



### 講演後の学生の感想

●医療人はスキルの向上は欠かせないが、自分がどうなっていきたいのか、患者さんに対してどういう思いで関わるのか、というマインドを保ち続けることが必要であると学んだ。



●接遇は治療の一部であると共に、医療人としてだけでなく、一人の人間として必要なスキルであると再認識した。

●接遇について初めて学び、人と接することの難しさを改めて実感するとともに、人と接することの面白さを再認識することができました。患者さんに安心感を与えられるよう相手の立場に立って考えられるよう努力していきたいと思います。

●より良い医療の提供において、知識や技術は当然安心・安全につながるが、マインドが相乗効果としてプラスにも働き、マイナスにも働くことが心に残った。

●「やる気(熱意)がある者にしかチャンスは来ない」という言葉が心に響きました。もっと積極的にがんばろうと思いました。

●今日の講演を聴いて、接遇というもののイメージが変わり、今後働いていくうえでとても役立つことができそうだと感じた。考えることが多く、自分の考え、気持ちを見つめなおす機会にもなって良かった。

●接遇は相手だけでなく、自分にとっても有益となるということが理解できた。先生自身の言葉づかい、身のこなし、全てが接遇を体現していると感じた。信頼される医療人になりたい。

## 平成27年度卒業生の国家試験合格状況

- 看護師国家試験は50名が受験し、全員が合格しました。(合格率100%)  
看護師国家試験13年連続合格率100%を達成しました！！
- 保健師国家試験は11名が受験し、全員が合格しました。(合格率100%)
- 理学療法士国家試験は21名が受験し、全員が合格しました。(合格率100%)
- 作業療法士国家試験は17名が受験し、16名が合格しました。(合格率94.1%)



※合格率 全国平均

●看護師国家試験…89.4%

●保健師国家試験…89.8%

●理学療法士国家試験…74.1%

●作業療法士国家試験…87.6%



## 平成27年度保健医療学部表彰

保健医療学部では毎年度本学部を卒業する学生と進級制限が設けられている2年生を対象に、学業成績および人物が優秀で他の範となる学生を最優秀者、優秀者として表彰する制度を設けています。平成27年度は以下の学生が表彰されました。

### 卒業生表彰者

#### 最優秀賞

看護学科 (朝比奈嫩葉賞) 安達杏子  
理学療法学科 (理学療法学賞) 皆上めぐみ  
作業療法学科 (作業療法学賞) 小野彩夏

#### 優秀賞

看護学科 山口莉穂  
理学療法学科 山埜光太郎  
作業療法学科 三和成美

### 2年生表彰者

#### 最優秀賞

看護学科 成田早織  
理学療法学科 出来龍太  
作業療法学科 鈴木沙季

#### 優秀賞

看護学科 齋藤優衣  
理学療法学科 浅田優太  
作業療法学科 瀧上来結



### 2年生表彰者の受賞コメント

#### ☆成田 早織 (看護学科・最優秀賞)

この度は看護学科の最優秀賞を頂き本当に嬉しく思います。ご指導して下さった先生方、共に勉強をしている仲間、いつも支えてくれた家族に感謝したいと思います。今後もより一層勉学に励んでいきたいです。

#### ☆齋藤 優衣 (看護学科・優秀賞)

この度は看護学科の優秀賞を頂き大変嬉しく思います。入学からの二年間を振り返り、先生方や同期の仲間、家族に支えられてきたことに改めて気付きました。お世話になる人々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも一生懸命勉学に励んでいきたいと思っています。

#### ☆出来 龍太 (理学療法学科・最優秀賞)

このような賞を頂き、本当に嬉しく思います。毎日楽しく学ぶことができる環境にいられるのは、両親や先生方をはじめ、支えて下さっているすべての方々のおかげだと思っています。3年になると今までよりも専門的な領域になるので、より一層学業に励み、将来の夢に向かって進みたいと思っています。

#### ☆浅田 優太 (理学療法学科・優秀賞)

今回、このような素晴らしい賞をいただき大変嬉しく思っています。これまでの大学生活を振り返ると、日々切磋琢磨し合う同級生達や親、先生方、その他たくさんの方々に支援、協力をいただき過ぎてきたことに気づきました。感謝の気持ちを忘れず、また今回の結果に満足することなく、これからも勉学に励み続けたいと思っています。この度はこのような機会を設けていただき本当にありがとうございました。

#### ☆鈴木 沙季 (作業療法学科・最優秀賞)

この度は、最優秀賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。このような賞を頂くことができたのも、先生方や先輩方、友人や家族など多くの方々の支えがあったからこそと思います。心より感謝いたします。今後も、感謝の気持ちを忘れずに、勉学に励み、残りの大学生活を過ごしていきたいと思っています。

#### ☆瀧上 来結 (作業療法学科・優秀賞)

札幌医科大学の学生であるということは私の誇りであり、その大学生活の中でこのような賞を頂き本当に嬉しく思います。改めてこの二年間を振り返ると、支えて下さった沢山の方々の姿が浮かび、感謝の気持ちで一杯になります。これからも謙虚に学ぶ姿勢を忘れず、残りの大学生活も大切な仲間と共に充実したものにしていきたいと思っています。



お問い合わせ先  
札幌医科大学事務局学務課保健医療学部教務係  
電話：011-611-2111(内線2192)